

①取り組みの体制 担い手の育成と地域有機質資源のリサイクル

②取り組みの主な内容

- ・担い手の育成
市の研修用宿泊施設の利用により、全国からの研修生の受入れが可能に。参入者の増加。
- ・地域内での有機質資源の循環
宇陀市シルバー人材センターとの連携により、植木の剪定枝等、地域から出る有機物を利用して良質な堆肥を製造。循環型社会形成の発信。
- ・学校給食への有機野菜の供給（食育の実施）
平成20年度、4回・約500kg供給（給食だよりで有機説明）

③生産概要

- 農業生産物の内訳
野菜（有機栽培） 8.2ha（ホウレンソウ・コマツナ・ミズナ等）
果樹（有機栽培） 0.2ha（ブルーベリー）
- 協議会の農業者数
現在 13人 目標 20人
- 協議会の売上
現在 9,000万円 目標 12,000万円
- 農産物の主な取引先……大手スーパー、百貨店等

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



有機農業推進モデルタウン
（駅前モニュメントで有機の啓発）

有機堆肥製造
（循環型社会形成の発信）



⑤協議会代表の一言

奈良県内でも有機JAS認証者が多い宇陀市。気候にも恵まれ、昼夜の温度差が大きい高原地帯でホーレンソウ・コマツナ・ミズナなど軟弱野菜の産地。
現在、有機農産物による、宇陀市の安全・安心野菜のブランド商品化を進めるとともに、「食育&食りと安全・安心農産物の循環型社会形成」を模索中。

食り（食品リサイクル）

⑥連絡先：宇陀市役所農林課（0745-82-3679）
e-mail：nourin@city.uda.lg.jp